國分直一先生の足跡を追って（2）
―残された野帳にみる 228 事件との遭遇

安溪遊地・安溪貴子

台湾に留用された日本人

第 63 号に掲載していただいた前回の主題は大正時代のはじめ、当時打狗（ターカウ）と呼ばれていた高雄の町での國分直一先生の幼年時代だった。今回は、ずっと時代が下がって 1947 年のことを書いてみたい。

台湾に暮らしていた日本人は、敗戦によってそのほとんどが――「湾生」と呼ばれた台湾生まれの人びとも含めて――「帰国」することになった。例外として、大学教員など、専門的な技能をもつ者は、やりかけた仕事を完成するまで台湾に留まることが求められた。こうして「留用」された日本人の中に、國分直一先生と、恩師である金関丈夫先生の家族もいた。

「光復台湾」のあらたな支配者として到着した大陸からの「外省人」への台湾生まれの「本省人」の不満が高まり、1947 年 2 月 27 日に、台北でヤミ煙草の取締をする専売局員の発砲事件を期に、一気に爆発した。のちに 228 事件と呼ばれ、その後 37 年にもおよぶ戒厳令の中での白色テロの源流となったまさにその時、それを目撃し、記録に残した日本人は非常に少ない。

この時、留用日本人として台湾大学の教員となっていた金関丈夫・國分直一両氏は、台湾人スタッフとともに台南附近での考古学発掘や人類学調査に従事していた。

1990 年秋、私どもは、日本民族学会（現、日本文化人類学会）と原ひろ子会長の支援を受けて、國分直一先生のお話をビデオに収録した。その語りを文字おこししたものを、以下に示す。これは、國分直一著、安溪遊地・平川敬治編、『遠い空――國分直一、人と学問』（2008 年、海鳥社刊）に収録した文章の原文にあたるものである。ビデオそのものもインターネットで公開しているので、パソコンで「國分直一先生のとっておきの話」で検索していただくか、スマホで以下の QR コードを読み込んでいただくと視聴することができる。

ビデオ・國分直一先生のとっておきの話「留用の 4 年間」（聞き手・劉茂源）

228 事件のときは、僕は金関先生とご一緒に、曾文溪（裏表紙地図の山上と大内の間）の調査をしていたんですが、「台北で暴動が起きた」というんです。そしたら汽車は新竹まで来たら止

まっちゃったんです。台湾大学の学生が指導して、汽車止めちゃったんだそうです。中国の製糖会社の技師が、妙齢のお嬢さんを連れていました。もう暴動が起きていますから、中国内地系の方というのは、ことごとく脅迫されていました。金関先生と僕は新竹の駅で、お嬢さんを連れた中国の技師を誘いました。「あなた方は危険があると思うから、すぐに我々は、ホテルに避難するから行きましょう」と言ったんです。それで、ホテルの一番奥の部屋に、その技師を連れて――英語の通じる方でした――新竹に四日くらいいましたかね。お嬢さんがいるもんだから非常に心配して……、とっても可哀想でした。それから僕は、金関先生に相談して、「この方達、台北に連れて行きましょう。金関先生の所に置いてくれますか？」と言ったら、「良い。僕の所に連れてこい。二人を救おう」と言われました。それで僕はマダムに頼みました。「このお嬢さんに、スカートをやって下さい」スカートの姿になれば､内地（中国）の人かどうか分からなくなりますからね。お父さんの方は、背広を着てました。お嬢さんだけ扮装を変えれば良いから……。非常に心配しながら｢どうしたら良いんだ？」と言うので、「話が通じても通じなくても、日本人が話してれば日本人と思うだろう」と言うことで、仕方ないので、下手なイングリッシュで話しながら駅に行ったんですが、こうして耳を傾けるんですね。「君、今話しているのは何だ？あなたは何だ？」「僕は日本人です」「日本語じゃ無いじゃないか。こっちは中国人だ」と言うんですね。そして、なんぼ弁解しても駄目なんですわ。「この人達は技師だから。本当に技術者なんだ」と言っても、（首を横に振って）許さないんですね。結局、二人を連れて行ってしまいました。それはいつまでも消えない、何とも辛い思いでね。

――あぁ。そしたら先生、救えなかった訳ですね。

救えなかった。

――それは、お気の毒です。

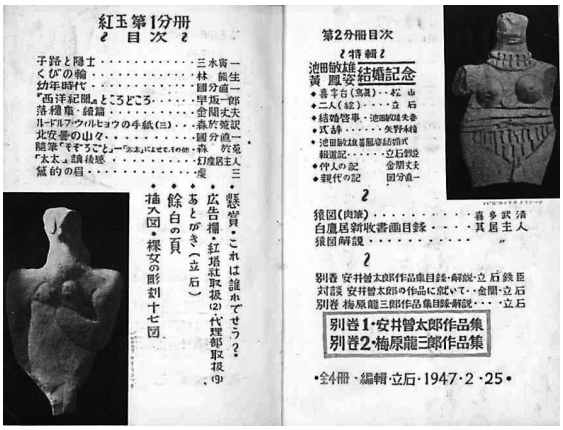
「もし、あなたが我々を妨害するなら、あなた方を殺す」と言うんですね。そういう所まで、行ったんです。それで台北に帰って駅降りたら、装甲車で銃撃してくるんです。金関先生と二人でドブに飛び込んだんです。銃撃が去った後に、飛び出して帰って行きましたけど、それから後、一か月間はどこにも出れないんです。……

そのときにこの『回覧雑誌』、この分厚いのができた訳です。ちょうど戦争の末期に、日本の東京では紙の配給ができなくなりまして、三省堂が中止になって、東京書籍株式会社と言うのができるんですね。台北にも、その支店ができたんです。こんなに（背丈ぐらいの高さの）この『回覧雑誌』のもとになった原稿用紙を持ってました。戦後、支店長に会って「原稿用紙下さいませんか？　我々は寂しくて仕方がないから、みんなで書いて回覧雑誌を作ります」と言うと、「どうぞ。使ってください」と、大変なボリュームの紙をくれましてね。そして金関先生を中心にして、書きました。それがこれです。そのメンバーに森於菟先生（森鷗外の

子、解剖学）などもいるし、早坂一郎先生（古生物学、後に島根大学学長）のような人がいるわけですね。

――（劉茂源）先生、228 事件があって、大変な時を過ごされましたね。今（1990 年）、台湾では若干解放されて、野党ができて 228 事件のことも検証していますけど……。そういう、嫌な時代もあったと言うことなんですね。だけど、あの中国人の親子を救えなかったというのは、先生、残念だったですね。それはもう、ベストを尽くされたんですから。

長く、心の底に残ってねぇ。「どうしたら良いか」と泣きたいような思いでしたね。……



同人の『回覧雑誌』の目次の例
（台湾大学図書館所蔵）

発掘と 228 事件の勃発

「感心居士」と呼ばれ、メモ魔であった國分先生は、フィールドでの見聞を細大もらさずその野帳に書き付けた。数百冊にのぼるそれらの原本は、いま国立台湾大学図書館 5 階の特蔵組に所蔵され、すべてデジタル化され、整理が済み次第順次公開していく手順となっている。その中に、台湾時代のものも数は少ないが残されている。ちょうど、上記の語りの前夜から、まさに中国人の親子を救おうと奮闘するあたりのことが書かれたものがあるので、それを読んでみたい。

台南附近での考古学発掘や人類学調査をしていた金関丈夫・國分直一先生たちは、2 月 27 日の夜、台北で暴力事件が起こったという報に接する。留用されて残った少数の日本人として、慎重に行動しなければならない。急いで台北に帰って、戒厳令の中で駅に着くのは危ないなどと考えて、出発を 1 日延ばして汽車に乗るが、新竹まで行くと国民党軍が列車を接収するかもしれない、というので新竹駅から 20 キロほど南の苗栗県の竹南駅で列車は止まってしまう。日本語も台湾語もできなければ、中国人とみなしてリンチを加えていた集団が、日本人には危害は加えないから、降りて下さいというので、リンチにあいかけていた、まだ幼い女の子を連れた老人をかくまって、駅前の旅館に入る。旅館の台湾人の主人も 2 人の女中も、なんとか助けてやりたいという人情を共通して持っていると國分先生は書いている。緊迫する状勢の中で、ラジオ放送が「600 万の台湾人よ立て！」と日本語で蹶起を呼びかける。旅館の見取り図や、4 人で寝た部屋の図面まで、ドラマ作家のような詳細な筆は描いていく。國分先生の記憶による後の語り（上記のビデオ）では新竹でのこととなっているが、野帳に記された現場は新竹の南の苗栗県竹南駅付近だった。恐らく、竹南を新竹と取り違えられたものだろう。

発掘の記録や、遺跡・遺物の図とともに、本省人の間での外省人への不満の高まりや、日本時代を懐かしむ声、警察官となっている原住民族の声などが緊迫する情勢の中でもていねいに拾い上げられている。文中「先生」とあるのは、金関丈夫氏のことである。外省人は、「中国人」「アーサン」、国民党は「中山さん」などと表現されている。群衆はMob, デモはDemonstrationなど、野帳をのぞき込まれてもすぐには意味がわからないようにするための配慮か、所々に英語の単語が混じる。以下、当時の社会情勢がわかるところを抜粋してみよう。場所は、台南州曾文郡大内庄、今日の台南市大内区で両先生が発掘した曾文溪遺跡付近から始まる。見出しは、もとのノートにはないが、このたび仮につけたものである。……は省略を示す。読めなかった字は■で、明らかな誤記の訂正や補足は［　］の中に表記した。野帳のデジタル画像（ntul-mf0033-00444）の使用にあたっては、國分直一先生のご遺族の許可と国立台湾大学図書館特蔵組のご協力を得た。

戦中戦後の状況 (1947年2月25日)

25日　山上の調査了へて大内にかへってきて一軒のそば屋による　なんにもいしきしないで　はいったのではじめは気がつかなかったが　やゝなれてみると　自分にたいする店のものの態度がいくらかおかしい　その中にものをたべてゐたものの一人が（ちょっと顔きゝのやうな）　私にあなたは純粋の日本人かときく　私は日本人だと答へると　あゝさうか　実はあなたが中国人だとうたがって　中国人ならものをやるな　お茶もだすな（実は私はいせき歩きでつかれてゐて　お茶をくれと注文したのである）　料理はつくってもまづくつくって高くとってやれ等とはなしてゐたが　みんながおまへは日本の軍とも関係してゐたし　日本人を見分けることが出来るだらうからためして見れといはれてためしたのだとのこと

そこで私が名刺を出すと　かれは大内郷大内952番地　梯江守　と書いて私の名前をいへばどこでも大丈夫といふ　かれは陽にやけたあからがほのもうかなりの年ぱいのものであったが上機嫌で私と語り　さかんに中国人の悪口をいひ　かへりには私を途中まで送ってくれた　芋の蔓しかくへないもののゐるお菓子屋によってお菓子を買わふ　とまで通訳ををしたり手伝ってくれたりした　いよいよわかれる時には　お大事にといひ別れた

民心がどのやうにうごきつつあるかそれはいかなる状勢の反映であるかくわしく考へてみなくてはならない

25日　鳴頭［大内郷の地名］にゆき鄭水深君に会ふ　数年前別れたばかりではじめて会ひ　感慨無量の感あり

東洋医学院を卒業して　戦争の末期にかへってきて　結婚したとか　すでに女児二人の父となってゐた　奥さんは背の高い人だが赤坊をおぶったまゝ厨房にゐて出てこない。お父さんが10日ほど前に［なく］なったといふので　家族全体が沈うつに沈んでみえた。

戦争中日本に協力　殊に Tatara 部隊がきてからは牛車のてうはつ竹のてうはつ（供出）人夫の供出などに全面的に協力した　ために終戦後は部落民に賃銀支払のこと　供出した器材の返かん等を迫られて非常に困却したといふ　お父さんの鄭万断氏は長くわづらってねてゐたので危害を加へられなかったやうであるが　兄さんの水木氏はおう打されたといふ　水深君はいたいたしげにその話をしてゐた

Tatara 少佐とはよく気もちもあったらしくなつかしそうに Tatara 少佐（26才）の話をしてゐた

元来鄭家は日本時代初葉にこの地方にはいり　平埔族中の豪族藩天生一門ときそひつゝ　次第に地盤をかためことに玉井精糖会社工場が出きてからは原料係として次第に地位をもち　玉井―善化間の甘蔗運搬台車を管理することになってから非常に大勢力をもつやうになり　藩家をおさへて大をなし戦争末期には非常に Tatara 部隊に協力したものであるが　終戦後前記のやうないきさつから地方民の攻げきをうけ　遂に藩家の天生の息に従来の地域をうばはれた形となり　天生の息が村長となり水深氏が副村長といふ格でおさまってゐるが　水深氏は最近辞表を出したといふ

愈々辞して去らんとするや郷長の息私らをひきとめてとまれという　郷長はイシをかねてゐて医院の方にゆくかなりの年ぱいのやせた人　やさしい声で　煙草をすゝめてくれたりのあげく　お風呂をわかし入れてくれる　非常に多忙らしく時々中座　食事の間も息子さんをのこして会社の雇員のせん抜しけんの口頭試問を行ひにゆく。夜は郷長官舎にとまる

夜官舎にかへる前　廖乾定氏の所をたづね、鄭君のおくさんの兄さんといふ。ゐない。

廟にゆくと台南からよんできたという老人をかこんでこゑにあはして古歌をならってゐる

千里眼　順風耳のまっくろなものすごい風姿がうすぐらい神廟の祭壇の両側に立ってゐるのをながめながら奥へは入ると　げんら王といはれる主神の前でこゑがなつて合唱の声をあげてゐた

廖さんはやあといひながら握手をする　福岡の Yuhshu［修猷］館を出て台北高校をへて　熊本医台［大］にまなんだとかで　ばりばりの日本語を使ふ　日本時代に　非常に日本人の官辺や民間人に受けがよく　かつ廖君自身も日本人とかはらないいしきで生きてゐたらしく　終戦は意外でもあり悲しくもあり　失望の中に奸漢としてのはく害をうけはしなかったが　白眼をもってみられ中傷をされたりしたという　かれが最高学府を出た手腕のある医者であったゝめ　村民にもうけがよかった　そういったものへのそねみから　現郷長陳氏（？）は、かれが日本時代蒋介席［石］を地獄に於いてさばく劇の脚本をかいて　劇をえ［ん］じた事を密告したといふ　ために憲兵にしらべられたとのことであるが　地方民の評ばんのよいことゝ　かれのひとがらによってきりぬけることが出きたらしいが　爾来両者の間はうまくゆか

ず　廖君は郷長に対していろいろ不平とその悪評をしてゐた

時代のおもひがけないおおきなてんかんきに際して　様々の運命の比関［ママ］さがみられる

夜郷長官舎にとまる　美しい風とん［布団］にあらひたてのシーツかかってゐて　きもちよくゆっくりじゅくすいする

考古学と人類学の情景（25-26 日）

25 日午後二時　水深君の案内で玉井に出る

国民学校遺跡を見たが土器片の極めて断片的な散布が見られるのみである約１ｍくらいの表土を除去したといふのでその際に遺物の多くのものがはこびさられ他の地いきに埋せきされてしまったものと考へられる

国民学校の教師教務主任の人にあひ案内してもらふ

Tabanii 事件［編註。大正 4 年に玉井で起こった原住民族の蜂起から日本人 95 人が殺された事件。西来庵事件とも］についてきかれて返事にこまる

つゞいて初級中学をたづねて校庭をみる　やはり土器片含砂　火度低い土器片散布してゐる　包含層の厚さは測定してゐない　適当な露層が見られない。初級中学に於いて郷長の息子（物理学校出）に会ふ　その他先生方したしさうな話しにあつまる　北京語、物理化学　英語、数学博物　語文等の担任あはせて専任４人　しょく託１人(長崎医大出身海軍々医）原始［原子］ばくだんをみまはれし時はよそにいってゐたといふ。）……

26 日　早朝辞して廖氏をたづね自転車で坑口――　の遺跡をたづねる

26 日　頭社［大内郷の地名］一泊……5 時先生一行と頭社にかへる

26 日　石棺の各石材に一々マルクをつけて　取り除き　さらに石棺下を掘ってみる　棺蓋上面のレベルから下には土器石器ともに包含なし

整理は午前中にすむ　国軍の一人この時来て見てゐた　鄭先生のご好意で生徒たちが竹のタンカで石棺の材を奉安殿あとにはこんでくれる

この付近古い墓地にして幽れいが出ると伝へられてゐた

25 日夕刻　石棺が出土したので婦人が　あらら　といふのをきいてゐた観衆は　道理でこの付近を通りかゝった時　淋しさうにめしがくへないとないてゐる婦人がゐたので　うちにきなさいと手をひいたら　手がつめたくてたちまち消えたといふ話があるが　そのわけが分かったとある一人がいふ

なにも出なかったのであの人たちは気の毒なことだなどといふ……

「馬鹿な人たちだ　何にも出やしないのに」「下から掘ればいいのになんといふおろかなほり方だ」……あつまった見物に通行人色々我々を見て笑ふ

竹山国民校の出来た時　［石棺が］三個位出土したともきく

「金を掘るのだらふ」といふもの「金をほるならはじめから石をぬいてみたらよいだらう」「いや金を掘るには昔からあゝいう風に少しずつ静に掘るものだ」等と説明するもの知りも出てくる

「蕃人は magic があるからあの人たち

は棺をあけたしゅん間石となるであろう」とうれうるもの 「国が破れたのに研究になんの意味があるか」といふ国民服の青年もゐる

第一日は結局20 cmほりさげ　一部20〜40 cmほりさげたまゝにして次日にゆづる 四時おはる

夜お医者様たちの歓迎会に出席　竹山旅館　生のエンチェンがでる　豚の足のスノモノがうまかった

中国軍の一大尉から　ピストルをもってゐるであらう　それなら2000 yenで売れと言はれて面くらう　劉街長の辯明によって漸くうたがひがはれる

27日　牛車　午前中国民学校児童の調査　指紋血液型　指紋のお手伝ひをする　あかまみれの子供の手にインクをつけていると体がくさい　はきたいやうなのがゐる　先生とくさい生徒たちがふざけはじめる　先生には童心があるので生徒たちなつくのである　こんなにふざけてあそぶことは　こゝの子供たちにはなかろうとおもって　ほゝえましく見てゐる　しかし子供のいたづらだんだんすゝみ　先生のベレー棒の頂についてゐるひもをつかみにくる

午後1時牛車に荷もつをつんで大内に出る　大内でチョッキをなくす　結婚した時にかったチョッキでおもひ出のおおいチョッキであつたから愛惜のきもちが強い

台車にて善化に――善化から5時頃の汽車で台南に

車中ピッケルをわすれたことをきづいて悲しくなる　沈氏が電話をかけてくれる（車掌にたのみ）　台南駅にてまだ返事なし　沈栄氏の所におもむく　久しぶりの対面　めしを銀座のすしやの二階でくふ　沈栄氏の招待

旅館新生旅舎にとまる　芝昭氏の居宅のあと　大床を二個おいた洋間に先生と自分、余さんと蔡氏は日本間。

夜陳師雄君に会ふ　土橋迎久君の葉書をよむ　なつかしい　陳君のおぢさんが日本婦人を妻にしてゐたこと　戦争末期に死んだこと　日本婦人のおくさん4人の子をつれて日本にかへったこと等を知る　写真を見る　美しい人　おぢさんは　Saijiri［蔡滋理］氏ににた怪いな容貌　看護婦の写真といふ　づがブックにはってあるいく枚目かのものは小さな赤ちゃんをだいた写真　陳君の叔父さんのつくった子でないかと気になるがきかなかった　日本婦人と他国人　ことに支那系の人との結婚は結局不幸になることが多いらしい。（はじめて石氏をたずねたがゐない）

台北での騒乱のニュース（2月27日）

陳君の話ではじめて　台北にあるさわぎのおきたことを知る　よくはわからぬが　煙草売りの老婆を専売局のとりしまり係のもの短銃の台にてたゝき且つ　あまりひどいではないかといひとめんとする民衆の一人をうち殺した（計二人）といふ　ために市民のげきこうするところとなり　専売局は包囲され長官公舎前にも　Demonstrationのむれがあつまったらしい　事件は次第に大きくなりついに三時放送では　戒厳令がしかれたといふ　参議会は陳［儀］長官に六項の要求を出したといふ

陳君は町を歩きながらその話をいくらか冷静にはなす。自分は非常におどろく

さかり場で帰路かしをくひ　ビーマー［不詳］を食べて先生にあふつもりなりしが　お目にかゝれず　いっしょに新生旅舎にかへる。先生らまもなくかへる

先生は台北の事件ニュースを街できいてこられて話される　先生は陳君のニュースよりもっとくわしくきいておられた。大変なことが出きてしまったと話しあふ

「うちの奴がかわいそうだな　どうしているかしら」先生はこころからさういはれる　しみじみといはれる　はっとうたれるやうに　私も台北のおうちのことを思ふ　おく様のお顔　とくちや［ん、金関家末子の悳さん］　敏雄さん、ちんりゃうせいが僕の出たことをしってゐるから　なんとかしてくれたかもしれない」「しかし　つかまって入れられたかもしれない」「とくちゃんが英語学校にいってゐるんだが」それなら色々時間的に下校時間その他のことを考へられる　日僑互助会が何とか通知してくれるかもしれませんね

陳君は首をふるやうにして　台北の奴らはやるな　といくらかふがひなささうにいふ

落ち着いた金関丈夫先生（2 月 28 日）

実は翌日紅頭嶼の壺を台南師範に見にゆくつもりなりしも　一刻も早く台北にかへらうといういふことを考へて陳君 12 時すぎにかへる　先生二時頃まで英文の探偵小説をよんでおられる私はつかれてゐるので　さきにベッドに入る　先生も気になられるとみえ思ひ出したやうに事件に関して話される　かいげん令がしかれてゐるとすると　通行はむつかしいだろうね　しらべるでせう　カメラはおいてゆきませう　ピッケルはあぶない

その中にさいさんが済南にゐたといふから　あちらのかいげん令を知ってゐるかもしれない　きいてみやうとしてさいさんの room にゆかれる

「済南では共産党潜入のうたがひのあった時　かいげん令がしかれたが　けんぺい兵たいらがならび　一列通行で要所々々であやしいと思はれるものの身体けん査が行はなれる位で yancho［洋車］も通行がゆるされた。」

さういふ話がせまい廊下ごしにきゝとれる

先生がかへってこられて　これこれかうかうだからたいしたことはない明朝の急行でかへろうといはれる　その中に自分はねいってしまふ　翌朝 4:30 頃目をさまし　善化に忘れたピッケルをとるために 5.35 分の上列車にのるために駅にゆく

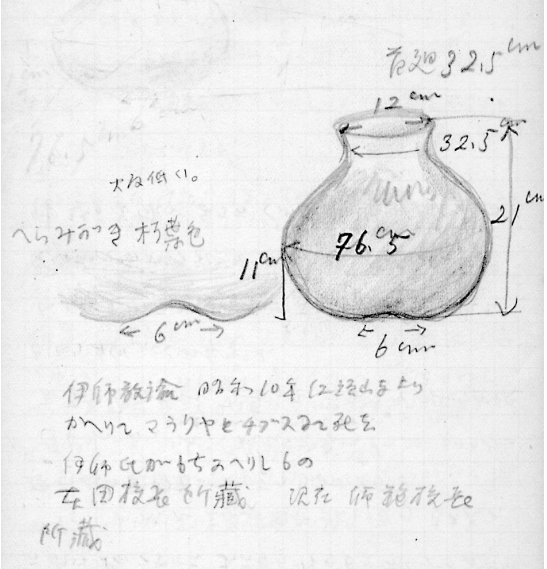
善化ではピッケルが駅長の所に保かんされてゐる。たしかにあなたのものか　証こは　といはれ仙台山内 505 番とかいて（ほって）ありますがといふと　その通りとてかへしてくれる　ピッケルのあったことおどり上がるほどうれしい　善化の遺跡を見るために下り 7 時 15 分列車までの 30 分間位を町にむかって歩く　しかし十分時間をつくして見ることができない　8 時に新生旅舎についてみると先生はお菓子を

かひにいって留守　余さんがひとりぽつねんとして一人ゐて　どうするかわからないのですが　先生はかへりたくないと　いっておられるといふ　温かい陽ざしがまどから入ってゐてじっとして動きたくないやうな気もち

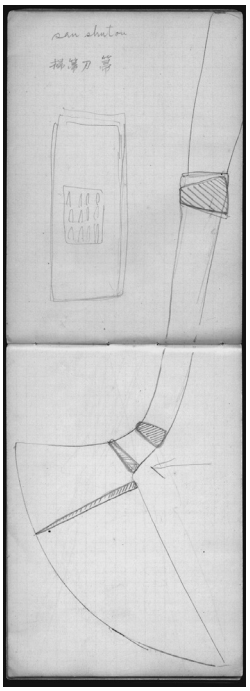
その中、先生かへってこられる　チョコレートのあぢのするあんのはいったおいしいまきパンとお菓子をかってこられる　あと45分で急行が出る　お茶をのみお菓子をたべてゐる中にかへりたくなくなる　もう十分間でかへれなくなる　さういはれながら先生はどっかとこしをおろしておられる　万事休すもう十五分間　もうどうしても間にあいませんかねといはれる　まにあひません

先生はやゝにこりとしてたばこをふかす　さいきん僕はあそんでゐたいやといふ　余氏もたちたくない様子　その中　午後の汽車で台中までゆかうか　そしてもやうをみて夜行にて立つといはれる　余氏その辺りのこと考へてゐたといふ。そこで1時55分発で立つことにして　12時に陳栄氏の所におちあうことにして　自由行動をとることにする　高ヱをたづねて顔氏にあひ千々岩さんにたのみ　台南師範にゆき紅頭嶼の壺（彩紋）を見ることにするとにかくいさゝか興ふんして校長官舎を辞す（師範はむざんにもばくげきと災火のあとをとゞめていた。）

それからひるめしを例の銀座のすしやでたべる　余氏とさい氏にあふ　余氏さい氏台中に一時の列車で立つことになる　われわれはのこり（＊石さんの所にくる途中　Tsau shauといふ靴型推断器をつかって蕃箒はんをつくる台をけづってゐるのを見て実測図をつくる）



紅頭嶼［蘭嶼］の彩紋土器（首廻32.5cm 火度低い。へらみがき朽葉色　伊師教諭昭和10年紅頭嶼よりかへりてマラリアとチブスにて死去　伊師氏がもちかへりしもの　本田校長所蔵　現在師範校長所蔵）



掃箒刀 Tsau shau tou の実測図

白金町　東門　花園町
（＊Gan［顔］さんが湯川さんのあとの小屋に　書がが　おいてあるといふのでがんさんとゝもにゆく　そこで寛済［寛齋］のナスとキウリ　のマリとカシワの小畫を見つけられほしいといはれる　Gan さんおしさうにしてゐたが　なにかと交かんしやうといふ）
　先生いゝきもちになられたらしくたのしさうに（がんさんとわかれて）石さんをたづねることになる　途中くつ形の推断器を見る　今日の午後はゆかいになったといはれる）　をみる［ママ］　みるべきものなし　白金町でかべ新聞を見た。くわしく知る
　がんさんの所へゆき魚すきをごち走になる　（公会堂前のカフェでコゝアとかしをたべ　石さんの案内で花園町の好事家をたづねたのだ）
　東門からのかへりに号外を見る　陳長官のせい明を知る
　千々岩さん夫妻　肺病々院長　Gan さん夫婦　みんなでたべる　おいしい
　8 時私だけにもつをとりにゆく
　沈氏のところでお嬢さんたちに会ふ大きくなってゐる　かあいらしいよせがきをのこしてあった　昔の生徒たち文句少々おかしい　しかしいっしゃうけんめいにかいたものらしい　ありがたい

汽車で台北に向かう（3 月 1 日夜）

（Gan さんのところで　Gan さん Āsan［外省人］といっしょになるのがいやで汽車は三等にのることにしたという　時々考へるとねむれぬことがあるといふ　あのいつみてもたのしげな生活力の強さうな Gan さんにしてそれかと思ふとおどろく）
　陳栄氏の弟さんがきてゐていっしょに立つ　肺院の院長おくってくださる二等車内で寝台をとってもらふ　所属でわかれてから　寝台には入る
　しんだいがあったので　にもつをはこび入れやうとして　私がおくれてゆくと　列車 boy が私をかこみ　日本人ですか　あゝ日本時代はよかったなといきなりかんがいをこめていふ　興ふんしてゐて　中山さん［孫文、国民党のこと］をほうり出さなくちゃといふものあり。台北事件をはなすものあり、応答のしやうなし
　汽車通霄でとまってしまふ　それまでねた　新竹には入ると汽車がとられるだらうと（鳳山部隊北上　在新竹なるにより汽車を）とられるといけないといふのでこゝはしばらくてい車するといふ　その中ねいる　さめると竹南に
　もうおきませうと先生がいはれるのでおきる
　ついて先生はいかぬという
　台北飛行場占領の Dema（風評を）boy からきく　次第に重大化しているらしいことを知る。
（台南出発の時　2 日［付］の中華日報を見てくわしく知る　しかしかいげん令は一日夜に到ってとくといふことが出てゐる　もし昨夜たってゐたらかいげん令下の台北にいってこまったらうとはなしあふ）
　その中駅べんをうりにくるものあり干がきをうるものあり　駅べんはかひはぐれ　干かきをかってくふ　日本語

の非常に上手な上海 style の婦人と日本語の上手な中国人及本省人二人のところへどんぶりはこばれる　そのどんぶり一つあまったのをくへといふ　先生と二人わけてくふ　くひきれず

汽車の中でのリンチ（3月2日）

やがて寝台を出てくれといふので二等車には入ってゐると Mob 来たりて中国人と思はれるものをひき出てリンチをはじめる　やゝ長髪の白いものをまじへたやゝ年ぱいの人のやせ形の中国人をひきづり出さんとする　かあいらしい女の子をひとりつれてゐる　出ぬとこづくのを女の子悲しい聲をあげる　私はどうしてもたすけねばと考へ女の子を自分たちの所へつれてきたく思ふ　その中 Mob の中の boss らしいものラホヤ［台湾語、老人］だからと制止するものあり　鉄道従業員らしいものもラホヤだからといふ　Mob をさけて出なくはならんと考へてゐる中に出てくれといってくる　日本人は大丈夫だから正かくなる日本語を話してくれと案内で駅員の注いをうけて苦笑する

竹南駅頭の旅館に避難（3月2日）

先生先とうに老人女の子それからいちばんあとに私が重いリュックサックを背に旅館にくる　Mob 中中国人でないかときくもののある中に日本人々々々といひつつ　Hotel にくる三階の部屋におちつく

別々の部屋をあてがはれたがいっしょにゐてやる　（なにかのひゃうしに）老人先生の名刺を見て Professor といふ　Oh you speak English　といふことになり英語での会話ができるやうになる　かれの名は　楊樹仁といふ　台北 normal school の Teacher だと名のれと先生は英語でゐふ

（列車から出る時　Mob の一人にかれがつかまった時学校の先生だと先生がいはれ病人だとといはれる　学校の先生ならよろしいといはれたのを思い出されて）

おし入れの下にコンドームがおちてゐる　使用されたものらしく根本はやぶれさきの方はにかはしつのものが付いたあとのやうにてかっとひかってくっついてゐる　先生つまんですてられる。

駅員ながく話してかへる　中食事をすましてあと　先生は画をかけられて老人に説明される（老人は C[h]icago の Technical school を出たといふ）

高雄の糖化公司にゐる engineer なりといふ　はなしていった鉄路業員は竹南区竹南鎮塩鑪前百三十七　鄭柄爐といふ

ゆっくりさしてやらうと次の部やに二人去る　Mob の中にゐた一人　牛耳ってゐた乗客あそびにくる　しばらくしてかへる　カギ［嘉義］の人

その中に Hotel の Master がきてきけんだからはなれのあきやにうつすといふ　一人一人つれてゆくといふ Come by one と先生が重々注意される

はじめむすめさんをつれてゆく時私がついてゆく　つゞゐて老人がゆく入れてしまふと外からかぎをおろしてしまふ。女中も主人（若い）もたすけてやりたいといふきもちにいっちして

ゐる　人情といふものを考へる

Mob Hotel には入ったことをみとめて　時々きゝにくるといふ　しかしあとでは　にげたといってごま化してしまふ　２時頃東大工科出の若い支那人変装ツメエリの国防色（？）の服を着て　外省人とつれ立ってくる　奥さん（あそばせ言葉を用ふる）は新竹の人なること　モンペをはいて変装してある所にゐること　一人の中国人日本語を解せぬもの同伴不安のこと等をはなすモッブの話をするとどんなものかときく　ふくしゅうを考へてゐるのでないかと直感する　主人と子供のことを心配してゐた　私たちがかばってゐることをきかしてやると安心したらしい。またくるといってかへる

午後３時頃外出して菓子をかってくる　茶をのみ　かけものをかんしゃうする

その中楊樹仁氏から英文の letter くる if there is any train　な ら for 公司寮にむかって明朝立ちたいといふ your's sincerely Yan とかいてある。

Dr. Kanaseki Mr. Kokubu, March 2nd
would you leave southward 4 o'clock tomorrow morning for 公司寮 by the train (if there is any)

Yours sincerely, Yang Shu Jen

[以下は、名刺の陳大經の名を消し住所を破った表側]　送呈

金關博士　　國分直一殿

(a few Bananas)

とても汽車はないしあぶないからと考へるが話が出きないからと Hotel の Master いふ　私が通訳をしにいって説明してくる　奥さんの服装の上海 style なることあぶないといふと変装したといふ

かれは　公司寮から ship をとらへるつもりらしいが出きないこと汽車の見込のないこと　stay here is better なること等を話し翌日　news をもって report するからとわかれる

夜くらい電灯の下で日記をつける風午后になって強くなり寒気つよくなる

How are you　と歓喜して私を迎へるのを Hotel の Master 聲をたてるなといふ　わかるとこまるといふ　それからはしゃわしゃわしゃわというやうな低いふるえるやうな聲で英語を話す■■［ローマ字カ］になる　日本語十万金［斤カ］からのあじがとれたとて　外を通るものはみなあじをさげてゐた

夜食をすませてから寒気のやゝ強くなったくらい外に出る気がしなくてかけぶとんであるが　あかじみたふとんを二枚かさねてしいて　うすい洗たくしたと思はれるシーツのかゝったふとんを胸から下にかけ over を頭からかぶってねる　（体中をのみがはひまわってゐるらしくかゆいがうとうとしてゐると　先生のおうちのボンの毛の中を歩きまわってゐるノミのことを思ひ出す

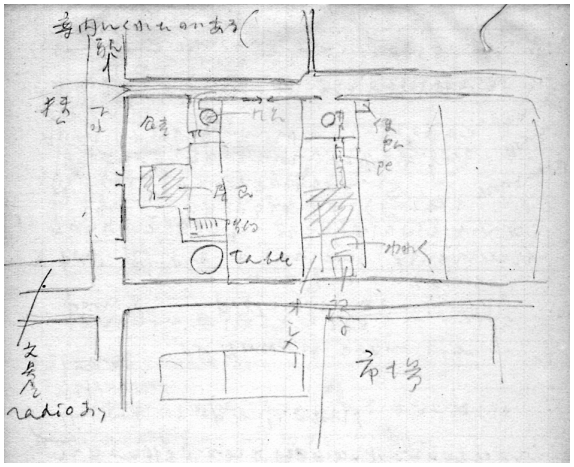
兵隊が来るという噂（３月３日）

夜中の十一時頃旅館の若い主人おこしにくる　新竹の兵隊がキ銃さうしゃをしながら南下してきた　いま香山にかゝってゐるといふから危険ですから逃げてくれといふ

あわてゝはねおきリュックサックにつめてあった石器類を出し衣類及ふろしきづつみのみつめてきがえをする先生はかべにかけてあったかけものをまいて長い方を私がもち　小さいのをbagにつめる　おおあわてにあわてゝ外に出て元川（穎）医院をたづねたがかたくしめてゐておきない　老人と女の子のことをおもひ出し　そのかくれ家にさけることにする

老人たち窓から入る月光をあびてならんでねてゐたが　おきて見てふとんをあげやうとするのを　先生　you may lay, sleep sleep　といはれる

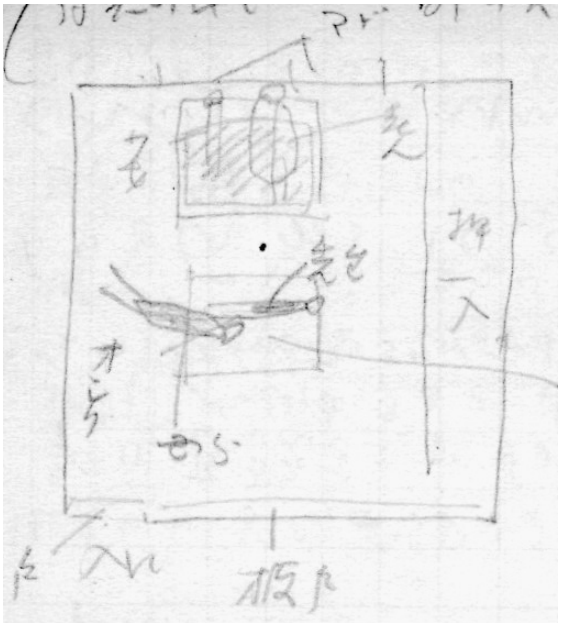
子供のみねかしつける　我々にはover coatをかしてくれる　（女中らが二人（その中一人は少女））が案内してくれたのである



二人を匿った竹南の旅館の見取り図

一人の少女女中私たちにぴったり体をよせて　カギは中からかけて下さい　それから旅館にとまったのでなくて　こゝまでさがしにきたといって下さい　旅館でこゝにかくしたといふと私たちが大変になりますから　静かにしてもしは入ってきたら　かべに体をくつゝけてゐて下さい　等と静かなおちついた聲で話してくれる　あなたたち女だから旅館にかへらぬ方がよいでせう　こゝにゐなさい　といくらすゝめても　私たちはHotelにかへるといってかへってゆく

大きな方の女中は日本語が通じない小さい少女の方はよく日本語ができ色は黒いがどこから可愛らしく　私がかつて女子校時代に教へた教へ子のだれだったかににてゐる　なにか非常に感激してその少女の手をとりたいやうな気もちになる　少女たちおりていって平静になるとYan氏立ち上がってまどの外をながめ　又腰をかゞめて私たちの所にきてHomesick Homesick all chinese is poem　という　The moon is up in the sky!　先生がpoem? poetでせうといふとpoet poetといふ　あはてゝゐる　my wifeといふておくさんをおもいだしてゐるらしい　少女のそばに腰をおろして顔をかきむるやうにかいている　先生と二人マドの外を見る　あかりがあか/＼とついてゐる　Never mind Never mindと先生いふ　体中かゆし　先生タバコをすはれる　月光がマドカラ青白くながれてうすきったない部屋を美しくみせる　それからしばらくしてねてしまふ　3時おきて見ると　先生のおしりに顔をくっつけて寝てゐた　どうりで顔がぬくとい（あたゝかい）と思った　（月光の中で町の灯があかるく見える　各戸におこしてあるく声がする　うとうとしてゐる中にねむる）



避難した部屋のようすの図解

少女と老人もおきてなにかしてゐる　少女が指さすと老人がふとんをよせるみてゐるとノミらしい　老人が白いシーツの上で黒いノミを指でおさへる血が出る　あゝといって我々の顔を見る　月光のなくなった部屋はもと通りうすぎったなく　のみをつぶしてゐる老人と少女とがいたましく思はれてくる

We are going to gather news　You must stay here a little while　といって先生と二人 one by one に出る　Hotel にかへる　若い主人　兵隊の行方不明であるといふ　外は平せい　あさのさわやかさ　バナナ一本　干ガキ一個がなくなってゐるだけ　かあいらしいどろ棒！

駅にゆく　昨日の急行の客車がそのままゐる　新竹行のバスが出る所　女学生らがのりこむ　汽車はないらしい　前の文具屋にいって news をきく　台北を様子をきく　公会堂で会議中にも銃声をきいたという　台中もほうきしたといふ　新竹から南下の部隊は disap[p]ear　したらしいといふ　台中の放送があったといふ　日本語放送があったといふ　海軍マーチがかけられ　青年よ立て　海外からかへった同胞たて　といったといふ

穎川医院をたずねる　主人穎川氏に会ふ　日本の婦人をおくさんにしてきた弟の医師は先生をしってゐて　したしく話をする　奥さんがいれてくれたお茶がおいしい

医院の患者の話を聞く（3月3日）

台中放送といふのを又きく　海軍マーチをかけて　日本精神を忘れたか我々は日本の 50 年の教育をうけた。全島 600 万の同胞よたてと　いったといふ

先づ桃園中壢に大学生がきたり指導新竹にもあらはれ　大学生が手りゅう弾銃器などをつんで四台のバスで応援にきたといふ

竹南から非常召集をうけた警官はなにか共産軍かと思ひでかけた　共産軍ならむかふにいってから共産軍には入ればよいと考へてゐた　ところがそんなことでなかったので武器をわたしてかへってきたといふ

南の中港部隊では（竹南はやったらしいから銃器をわたしたといふ　我々もやらなくてはならないとて）昨夜ドラをならして人をあつめた　軍歌をうたひながら　木刀や松［松明カ］などをもち　町をねり歩いてゐる中に　群衆となったといふ　しかし兵きたらず

今朝のかん者の話

警官中に三人の高砂警官あり　南庄に状せいをしらせたら　我々も出動するが　といってくる　それをこんど電話をかけたらこい　まっすぐに自分の所にきてくれといったといふ

高砂を利用して抗日劇を上演するとのNewsを台北でみてきたが思ひあはしてみて　興味ふかい

大溪兵の　Tayalは大溪まできてTaiki［待機］してゐるといふ

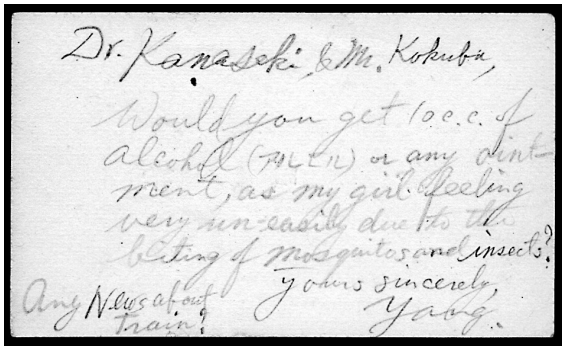
10時半　先生　Egawa　氏といっしょに出てゆかれる　毛ぬき　を買ひにゆかれる　白がをぬいて若がへるといはれる　（かべに静物をかけて日本のお茶をのみたいといはれる）

町にでて毛ぬきとお菓子をかってこられる

ひるめし前bananaをかってかへる38 yen ひるめし60円――ランチ

町で大戦果とはなしてゐるのをきくかなりのDemaがあるらしい

先生　ひるめし後1.30迄ひるね　1 40分にEgawa氏の所にNewsをきゝにゆく


Dr. Kanaseki & Mr. Kokuba,
Would you get 10c.c. of alcohol (70%) or any ointment, as my girl feeling very un-easily due to the biting of mosquitos and insects?
Yours sincerely,
Yang.
Any News about train?

名刺の裏に書いた楊樹仁氏の手紙

タイヤル族の警官の話（3月3日）

はからずも陳さんという中国姓ではあるがTayal出身の警官にあふ

「私は終戦後　省の警官訓れん所にゆき4ヶ月間の訓れんをうけました　しかし一日としてたのしいことはなかった　午前中は北京語をしたが　これをならって役に立つかと考へ　本気になっておぼえる気がしませんでした　4ヶ月間はあそびました　友人の所　先生の所　部下の所と　そして途中で自分にはむかないし体もわるいからといって辞職をねがったが許されませんでした　出てから平地勤務を命られたが一日も一つもたのしいことはありませんでした　私は山の言葉もよく出来ません　日本語しか出来ません　それでずいぶんくるしめられました　警官になってからも何回も辞職ねがひを出しましたがうけ入れて呉れません

私の南庄［苗栗縣東北部］の村はかって15戸ありましたが今は10戸くらい　出征してなくなったものもあり現に私の兄は空てい隊の一員として生死不明　父と妹は終戦後のマラリヤ大流行の時になくなりました　一切の救済そちは講じられてゐません　一人の官吏もきません　村のものはあるものは　蕃社の大湖郡の山にかへったものもあります　たった二人きてくれたのはEgawaさんとある歯い者さんだけ　Egawaさんは採血と血ちんをやってくれました　そして保菌者をしらべあげてくれました　政府から少しばかりくすりをもらひそれでやってゐますEgawaさんに〇〇をつくってもらひそれで交渉してみるつもりでゐた所この事件です　はじめ私はこの2.28事件をしりませんでした　非常召集をとい

ふので中壢までいってもやうをきいてみる　わかりました　そこで自動車がパンクしたといってさきにゆけぬと報告してくれといふことにした所　ひんかん［賓館カ］にとまって明日修理した上もしできなければ汽車にて北上せよといはれたが　ひんかんにゐると　中壢の police station から包囲されてそこで武装をといてこんぽうし　上衣をとり私服にして Track［トラック］にのってかへってしまった　包囲後の状況不明です昨夜は支那兵南下の報がありましたので　もし事実なら警察の銃をわたすといひましたがたしかめてからといひ　新竹や station にとひあわした所事実なしとてそのまゝにした　所が夜中に空襲警報の放送がありましたので　電気を消せといって町を歩きました　村人は退ひなど動えうしましたがよく音をきけといふとしづかになりました　今朝 4 時にねました　山には電話で事情をしらせてやりました。山ではぢりぢりして出動の機をまってゐるやうですが　正かくな情報を得たらしらせるからそれまでまってくれといってやりました私は命はいりません　やるよりほかにないのです」

　しかしやるなら断然あくまでやらなくてはなりません　私には足のつめさきから頭のかみの毛まで日本精神がは入ってゐます　私は死をおそれません」

　かれは三十にはならぬと思はれるとゝとった容貌のしっかりした分別のある青年だった。

放送が決起を呼びかける（3 月 3 日）

　その中やゝおっちょこちょいの青年来る　国民校の先生であるといふ　今日から学校にゆくと生徒　先生といってくる　日本語を使いませうといふ日本語をつかへといふと校長にらんで怒る　あとでおまへはあわてものだといふ　自分があわてゝはゐませんとやってゐると

　そこへ　ラヂオが日本語放送をはじめたといふ　又一人あらはれる

かへる。（この話のはじめの頃　お風呂をたのむ）

　雨がきて街街がぬれてゐる

　僕は station へ汽車のことをきゝにゆく　先生は　Yan 氏に News を伝へにゆく　子供のよみものがないといふから　先生かって与へられたといふ高雄軍隊がしっかりしてゐるから大丈夫　といふとうなづいてゐたといふ雨の音　赤いやねかはらにおちる雨の音をきいて日記をつける（3 時半）

（Takasago の警官は志願兵にいったといふ人）

（以上の会話のはじめ　台中放送きくふくけん［福建］語　広とん［広東］語放送についで日本語で　台中市内で国軍と市民との間に戦争が行はれてゐるといううわさがありますが　台中には国軍のかげを見ません　実かんがある）

［228 事件をめぐる國分直一先生の克明な記録は、ここで途絶え、この後は、メモや発掘記録になっている。その最も新しい内容は、同年 4 月の蘭嶼学術調査のものである。］

現場を求めて（2018年9月）

これは、ほとんどの日本人が立ち去ったあとの時期に起こった228事件の勃発の前夜から直後にかけての台湾中南部の雰囲気を伝える貴重なルポである。緊迫する情勢を伝える國分先生の野帳は、残念なことにここで終わっていて、いまのところ、続きは発見されていない。しかし、残された部分だけでも、これまで報告されたことのない詳細きわまりない、まさに同時代の記録といえる。228事件の時に、金関丈夫大人が、動乱のニュースが流れるさなかでも、落ち着いて絵を鑑賞したり、白髪を抜くために毛抜きを買い求めたりする余裕は、みごととしか言いようがない。そして、身の危険を冒しても中国系の人たちをリンチから救おうとした台湾人と日本人たちがいたこと、その様子を克明に捉えた記録を、留用日本人が残していたことは、歴史の記録として忘れてはならないと思う。

この野帳の現場に立ちたい。そう願ったわたしたちは、2018年8月31日、新竹にある国立精華大学で人骨考古学を教える、國分先生ファンの邱鴻霖さんに導かれて、竹南駅をめざした。

竹南駅前の問題の旅館は、今もあるか、住民はその宿のあったことを覚えているだろうか。駅との位置関係がはっきりしない、國分先生の残された地図を頼りに駅の周辺をぐるぐる回る。市場と接していたというのだが、その後市場もかなり拡張されたのか、なかなかこれはという場所がみつからない。

考古学者の邱さんが、人類学者も顔負けのフィールドワーク力を発揮して、まず、古そうな旅館を探すが、若い人しかおらずらちがあかない。それでは、と昔のことを知ってそうなお年寄りはいませんか、と聞いて回ってくれる。角の漢方薬屋の女性が、近くのハンコ屋のおやじさんがいいだろうという情報をくれる。別れるときに丁寧に両手を合わせて挨拶をされる。

竹南駅前のハンコ屋さんの店で

（撮影・邱鴻霖）

ハンコ屋を訪ねると、階上から生け花の葉の束のようなものを両手に提げて元気に降りてこられた。年齢は84歳で、228事件の時には8歳だったという。日本語もかなり話せる。そのころからここに住んでいるが、そう言えば、向いには旅館があった、経営は韓国人がやっていたようだという。昔の竹南市街の地図の載った本を出してくれて、親切にコピーまでとってくださる。

そうだ、隣の旅館のじいさんはどうだろう、というので、行って尋ねてみるが、奥さんが出てきて日本語で「もう頭ショートしてる」という。高齢で話が通じないという意味らしい。通りを渡って、もとは隣に住んでいたとい

うおじいさんの家を訪ねる。92 歳、車椅子だが、通りの向いにあった旅館は日本時代には日本人がやっていて、末廣という名前だったという重要な証言をしてくれる。

お二人にお名前を書いていただく

（撮影・邱鴻霖）

また、國分先生の地図にラジオのある文房具店とある店も記憶と符合し、文房具以外に薬なども扱う雑貨屋のような店だったという。まだ確定はできないものの、有力な可能性がある場所のひとつかと思われた。「日本の歌はどんなのを覚えておられますか」と聞いてみたら、白地に赤く日の丸染めて、桃太郎さん桃太郎さん、などが出てきた。海ゆかばなどの軍歌調のものは、歌われなかった。住所と名前を書いてもらううちに、ハンコ屋さんのご家族が、食事に行くよと誘いに来られたので、早々に失礼した。

おわりに

邱鴻霖さんの導きのおかげで、行く先々で、どなたも熱心に協力してくださるのをありがたく思いました。また、ノートの中の地名の同定などでは、土地勘のない私どもを、中生勝美先生（桜美林大学）が適確に助けてくださいました。

次回以降は、國分直一先生と金関丈夫先生のように留用された台湾大学の教員のなかで、もっとも遅くまで台湾に残った、松本巍（まつもと・たかし）教授や、「かうぱん生」の筆名で、金関サロンの『回覧雑誌』に寄稿していた高坂知武（たかさか・ともたけ）教授とその記念室、また台湾大学内の磯永吉小屋として現在も大切に保存されている、農学系の先生たちの足跡と思い出をたどってみたいと思います。

幼いころを台湾で過ごされた会員のみなさまにとっての「常識」が足りなくて、おかしなところがありましたら、なんなりとご教示をたまわれば、次回以降に訂正とともに掲載させていただければ幸いです。

（あんけいゆうじ、山口県立大学名誉教授・あんけいたかこ、山口大学非常勤講師）

※国分直一・野帳の地名（1947 年 2 月末～ 3 月始）図は裏表紙に記載。

63 号の記事の訂正

22 頁右 13 行目、胸が悪いそうだ→胸が悪そうだ

25 頁右 13 行目、トタンで吹いて→トタンで葺いて